

寫

海軍

大正九年六月十五日發

在英監督官

技術本部第六部長宛

電報譯

技本六第百六十六號ノ回返 英國 S.P.型航空船飛行場ノ面積ノ標準ハ
 四周平坦ノトキ最小限七十四エーカー（約九萬坪）ニシテ若シ附近ニ
 丘陵アルトキハ其高サノ約十五倍ノ地域（標高五十米ナレハ七百五十
 米ノ範圍）ハ飛行場面積ニハ算入セス セリ追濱飛行場ハ航空
 船ノ實驗ニ對シ全然不適當トハ信セサルモ其飛行機會ニヨリ
 大ニ制限セララルモノト認ム 電 二十三番 六月十五日
 （技本六第一六六五號ノ五）

64
技本六第百六十六號

（報文社納）

0273

航空部



目録

一、大正九年度甲種學生修業人名表

一、御賞賜品拜受者人名表

一、大正九年度甲種學生操縦術教育進度一覽表 其二

一、大正九年度甲種學生教育實施一覽表

一、大正九年度甲種驅逐科學生射擊學術科實施一覽表

一、大正九年度甲種偵察科學生偵察學術科實施一覽表

Handwritten notes in Japanese, including the word '航空部' and other illegible characters.

大正九年年度 第一回 甲種學生修業人名表

大正九年六月 陸軍航空學校

士官學校期別 (做兵年月)	基本操縱術 修業年月	專修科目	所屬	官氏名
第二十三期	大正四年四月	偵察操縱科	航空第四大隊	陸軍歩兵大尉加藤尹義
第二十四期	大正五年四月	同	航空第一大隊	工兵中尉小嶋寅雄
第二十六期	大正七年十月	馳逐操縱科	同	工兵中尉水谷良藏
第二十六期	大正八年五月	偵察操縱科	航空第三大隊	砲兵中尉近藤源三郎
第二十八期	同	馳逐操縱科	航空第一大隊	同 歩兵中尉河井田義匡
第二十八期	同	偵察操縱科	同	歩兵中尉樋口正治
第二十九期	同	馳逐操縱科	同	騎兵少尉今田 徹
大正十年十二月	大正七年十月	偵察操縱科	航空第四大隊	工兵軍曹中山敬造
大正十年十一月	大正七年十月	同	航空第三大隊	工兵軍曹中根常四郎
大正十年十月	同	馳逐操縱科	航空第一大隊	同 工兵軍曹森 作藏

御賞賜品拜受者人名表

大正九年六月二十八日

陸軍航空學校

偵察操縦科修業者 航空第一大隊附 陸軍歩兵中尉 樋口 正治

驅逐操縦科修業者 航空第一大隊附 陸軍工兵軍曹 林 作藏

0276

大正九年
第一回

甲種學生操縱術教育進度一覽表(一) (補修教育)

大正九年五月編
陸軍航空學校

官名	一月		二月		三月	
	日	月	日	月	日	月
歩兵大尉 加藤 勇義	12	13	14	15	16	17
同 右 滝川 義治	12	13	14	15	16	17
工兵中尉 小嶋 貞雄	12	13	14	15	16	17
同 右 水谷 良藏	12	13	14	15	16	17
砲兵中尉 近藤 源三郎	12	13	14	15	16	17
歩兵中尉 河井 田義匡	12	13	14	15	16	17
同 右 植口 正治	12	13	14	15	16	17
騎兵少尉 今田 徹	12	13	14	15	16	17
工兵軍曹 中山 敬造	12	13	14	15	16	17
同 右 中根 常四郎	12	13	14	15	16	17
同 右 森 作藏	12	13	14	15	16	17
歩兵中尉 吉田 利喜雄	12	13	14	15	16	17
同 右 池田 慶次郎	12	13	14	15	16	17
工兵曹長 薄田 勝正	12	13	14	15	16	17
平均日数	12	13	14	15	16	17
平均回数	12	13	14	15	16	17

一、各學生ノ欄右ヨリ左ニ斜線ヲ施シアルハ病氣或ハ其他ノ事故ニヨリ欠席ノ日ヲ示ス
 二、右學生ノ欄ニ重刻比重數字ヲ以テ記載シアルハ各操縦行爲施ノ回数ヲ示ス
 三、平均日数ニ欠席ノ日数ヲ算入シアラス又天候等ノ爲メ操縦行爲施シ得カリシ日ヲ除キシアラス
 四、滑走機

二式二十三平方機同末
 二式二十三平方機早機
 二式十八平方機早機

二二四回 七、八日
 三〇七回 九、八日
 一六六回 六日
 二八六回 一、二日

一月 二月 三月
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

大正九年五月 第一回 甲種學生操縦術教育進度一覽表 其二 (應用教育)

大正九年五月 陸軍航空學校

備考	操縦術						飛行術						官制 年月						
	平均回数	平均日数	工藤中校菅田	工藤中山政造	工藤正治	工藤近藤三郎	工藤加藤手義	工藤小畑實雄	平均回数	平均日数	工藤曾森作哉	工藤今田徹		工藤河野義匡	工藤水谷良藏	工藤滝川義治			
一 各學生ノ機上ヨリ左下ニ斜線ヲ施シアルハ病氣或ハ其他ノ事故ニヨリ欠席ノ日ヲ示ス 二 各學生ノ欄ニ至刺比五数字ヲ以テ記載シアルハ各種飛行實施ノ回数ヲ示ス 三 平均日数ハ欠席ノ日ヲ算入シテ又天候等ノ為メ演習ヲ實施シ得ザリシ日ハ餘表シテ示ス	一四回	一一日						二三回	一三日							17			
																		18	
																			19
																			20
																			21
																			22
		二二回	一五日						一一回	八日							23		
																		24	
																			25
																			26
																			27
																			28
		三三回	一八日						二二回	九日							1		
																		2	
																			3
																			4
																			5
																			6
		四四回	二二日						二二回	九日							7		
																		8	
																			9
																			10
																			11
																			12
	五五回	二六日						二二回	九日							13			
																	14		
																		15	
																		16	
																		17	
																		18	
	六六回	三〇日						二二回	九日							19			
																	20		
																		21	
																		22	
																		23	
																		24	

大正九年度第一回甲種學生教育實施一覽表

大正九年五月調

科	偵察操縱科						驅逐操縱科						官制	氏名	回数	時間	日数	
	步兵大尉	步兵中尉	砲兵中尉	歩兵中尉	工兵中尉	工兵大尉	歩兵大尉	歩兵中尉	騎兵少尉	工兵中尉	工兵大尉	歩兵大尉						歩兵中尉
平	加藤 尹義	小島 寅雄	近藤 源三郎	樋口 正治	中山 敬造	中根 常四郎	均	森 作藏	今田 徹	河井 田義匡	水谷 良藏	龍川 義治	均	龍川 義治	水谷 良藏	今田 徹	森 作藏	均
回数	12	12	12	12	13	13	12	18	12	12	14	4	12	18	12	12	12	12
時間	1.06	0.45	2.42	1.02	2.16	1.00	0.59	1.47	0.42	0.42	1.71	0.31	0.59	1.47	0.42	0.42	1.47	0.59
日数	4	4	4	6	6	6	7	13	8	6	6	4	7	13	8	6	6	7
回数	21	26	34	45	45	46	23	36	19	22	24	13	23	36	19	22	24	13
時間	3.18	4.01	3.56	5.08	5.05	5.52	2.40	4.03	2.18	2.17	2.43	2.01	2.40	4.03	2.18	2.17	2.43	2.01
日数	8	10	11	13	14	13	8	13	6	7	7	5	8	13	6	7	7	5
回数	13	13	18	18	18	18	14	16	15	17	17	7	14	16	15	17	17	7
時間	1.39	2.30	4.09	2.35	2.40	2.14	2.45	2.44	2.07	3.43	4.13	0.59	2.45	2.44	2.07	3.43	4.13	0.59
日数	10	8	7	3	6	7	6	5	8	6	6	5	6	5	8	6	6	5
回数	38	39	17	29	28	33	26	29	28	26	27	20	26	29	28	26	27	20
時間	5.42	5.20	2.04	4.31	4.39	4.24	3.30	3.17	3.53	4.40	4.30	1.10	3.30	3.17	3.53	4.40	4.30	1.10
日数	16	16	7	16	11	12	13	9	11	14	14	19	13	9	11	14	14	19
回数							64	63	59	64	66	67						
時間							17.00	16.59	16.31	18.04	16.57	16.37						
日数							42	36	43	43	43	43						
回数							19	20	18	20	17	19						
時間							4.48	4.26	4.26	5.12	4.21	5.37						
日数							13	13	13	13	13	13						
回数	15	16	13	17	11	13												
時間	2.36	2.24	1.55	2.44	1.23	2.27												
日数	12	11	10	12	7	12												
回数	32	26	30	31	29	30												
時間	8.25	7.15	8.18	8.36	7.53	7.01												
日数	31	32	31	31	30	31												
回数	158	131	137	146	167	153												
時間	31.44	22.46	22.15	23.04	23.86	22.58												
日数	89	81	81	81	81	81												
回数	182	151	151	161	165	130												
時間	33.16	29.57	34.38	33.55	26.55	23.16												
日数	89	89	89	89	89	89												
摘要																		

備考

一、本表記載ノ日数ハ全教育日数中ヨリ日曜祭日ヲ除キタル日数ニシテ天候其他ノ故障ヨリ飛行ヲ實施シ得ザリシ日数并ニ學生ノ事故ヨリ演習ニ出場セザリシ日数ハ共ニ除去シアラヌ

大正九年
第一回 甲種驅逐科學生射擊學術科實施一覽表

大正九年六月
陸軍航空學校

科 術							學 科		課 目																		
射擊			演習		上 機		地 上		射擊學	兵器學																	
擊	射	彈	擊	射	寫	寫	照	準	演	習	射擊學	兵器學															
吹	流	標	的	擊	的	真	擊	留	氣	球	練	習	飛	行	補	助	射	擊	地	上	射	擊	照	準	演	習	
四	四	四	四	三	二	四	三	二	六	五	九	一	五	六	二	六	五	九	二	四	三	九	五	二	五	六	五
一	九	五	一	四	五	一	〇	〇	七	〇	七	〇	七	〇	七	〇	七	〇	四	三	〇	九	五	二	五	六	五
四〇			三三〇				九〇	五九五				二七〇		二七〇													
											二七五																
											四回數及時間ハ各人ノ年 為數ヲ示ス																
											一 照準演習ハP兵照準儀及準照習 形照準タイミツト照準 クレツト照準等トス 二 地上射擊ハ浮標的標的圓標 的の如ク射撃スG.K.C.B 射撃トス 三 補助射撃ハ射撃射撃 扶策 射撃 拳銃射撃トス 四 回數及時間ハ各人ノ年 為數ヲ示ス					摘 要											

飛行演習			學 術 科					區分	大正九年度 第一回 甲種偵察科學生偵察學術科實施一覽表 大正九年六月 陸軍航空學校	
偵	觀	寫	航空戰術	連 絡	無 線 電 信	寫 真	觀 測	偵 察		課 目
偵 察	觀 測	寫 真								實 施 回 數
一〇	二	一	九	一〇	三六	三七	三〇	七		實 施 時 間
	一〇・五		一八〇	一四〇	五四〇	五六五	四五〇	一〇〇		總 時 間
三二〇			二〇八〇 <small>時</small>					摘	要	
四數及時間ハ各學生ノ平均數ヲ示ス			下ニ學生ニ就テ戰術ノ實施ヲ示ス							

0281

高等飛行		編隊飛行						科	操縦者人名表
偵察科	驅逐科	偵察科			驅逐科			操縦者種別	
		中央後	左	右	編隊長	左	右	編隊長	
サ式第五三八〇號	ハ式第一八七九四號	サ式第四二一五號	サ式第五三八〇號	サ式第四二一一號	サ式第五三五三號	ハ式第一八七九四號	ハ式第七四〇八號	ハ式第一九〇三七號	
歩兵中尉 樋口 正治	工兵軍曹 森 作藏	工兵軍曹 中山 敏造	歩兵中尉 樋口 正治	砲兵中尉 近藤 源三郎	工兵中尉 小嶋 寅雄	工兵軍曹 森 作藏	歩兵中尉 河井田 義匡	工兵中尉 水谷 良藏	
								機体番號	
								官 氏 名	

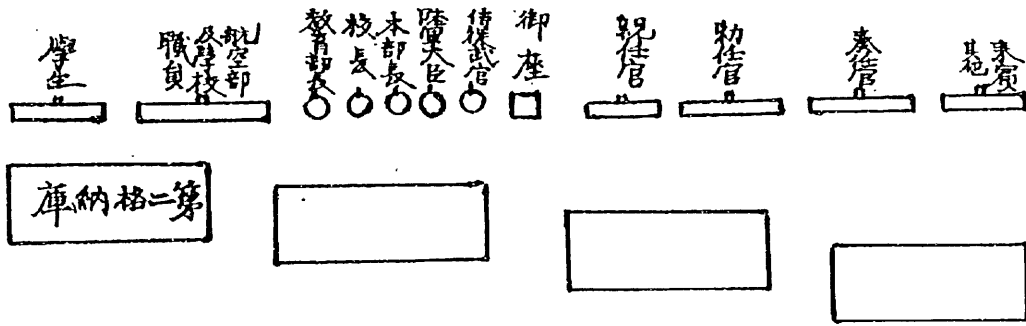
昭和九年六月二十八日
陸軍航空學校

0282

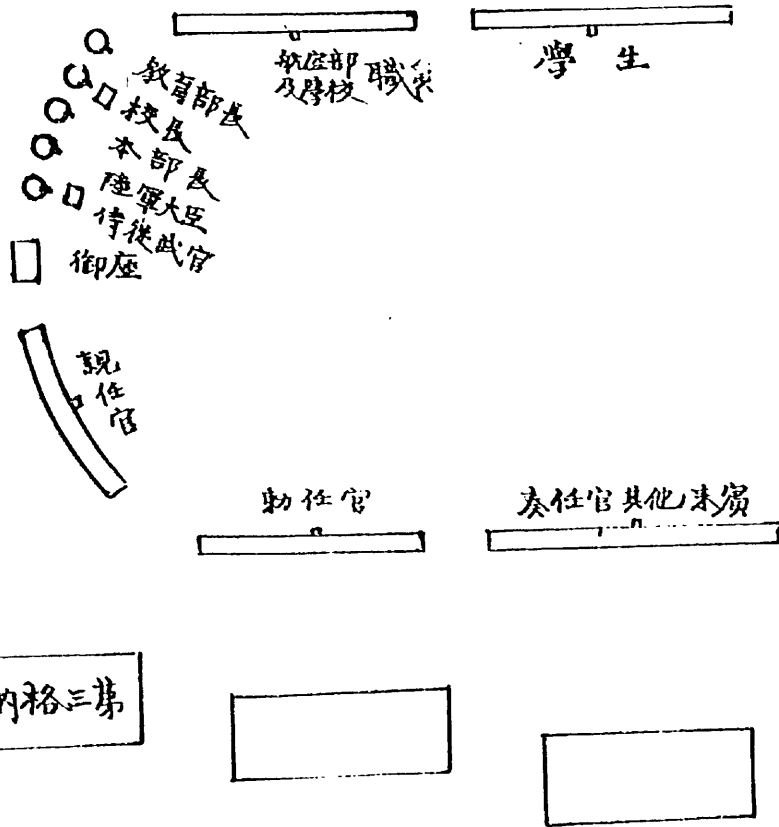
晴天式場及飛行

飛行

飛行場



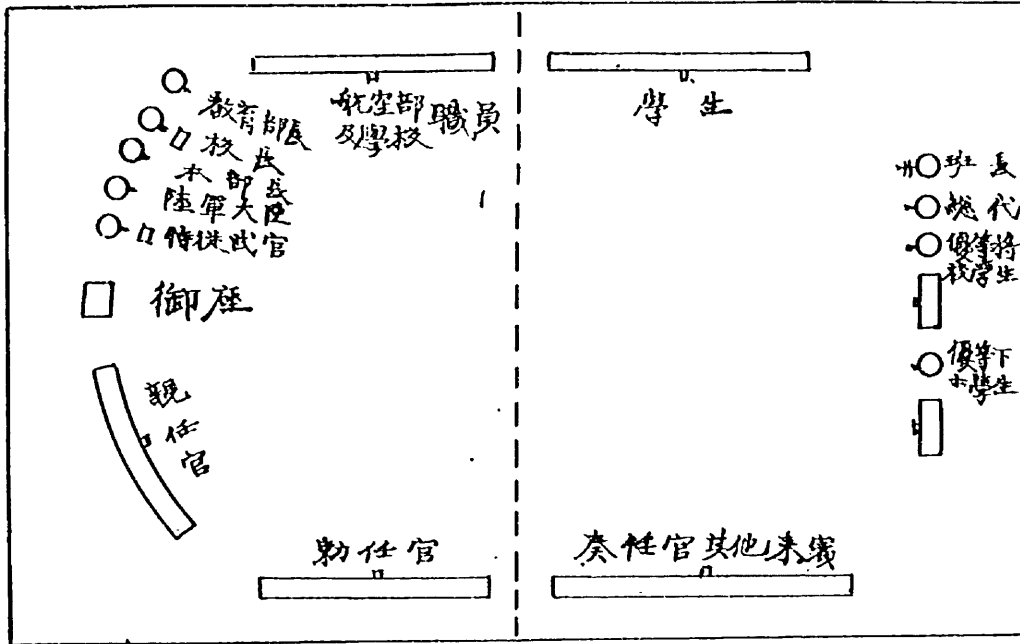
式場



場

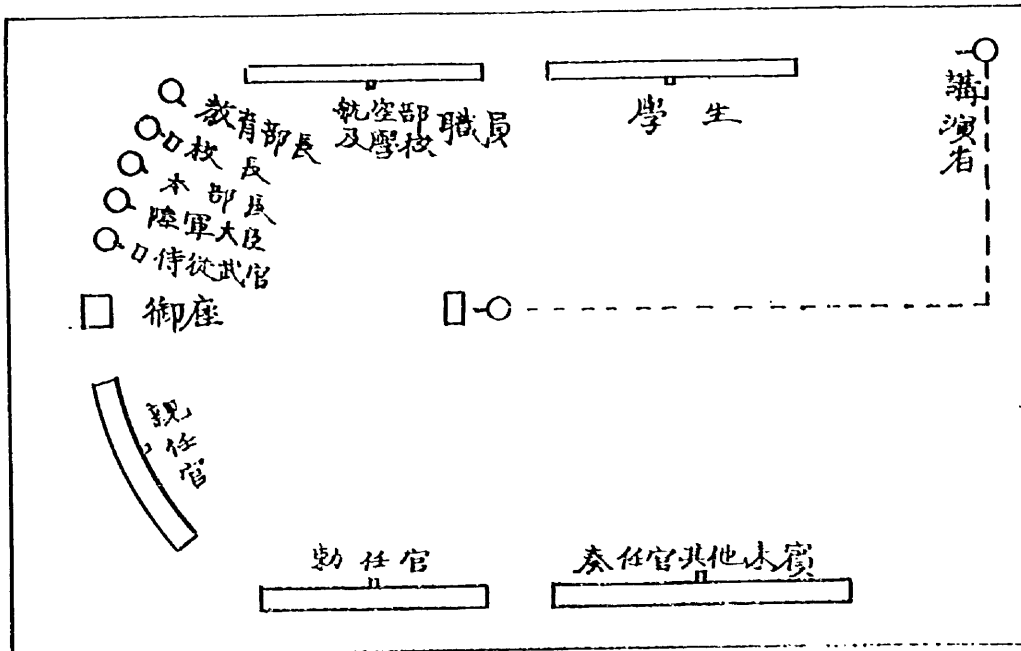
式

口 入



雨天式場及講演場

場 演 講



0284

修業式當日ニ於ケル時間ノ豫想

殿下 御着校 午前九時三十分

御休憩

拜謁

書類捧呈

飛行場へ御成

飛行(講演)

御退場

御休憩

式場へ御成

御賞賜品并投

御退場

御休憩

御歸還

約二十五分

約三十五分

約三十五分

午前十一時五分

東京——所澤連絡表

路 往	路 既
東京 ↓ 汽車 ↓ 所澤駅 ↓ 自動車 ↓ 學校 新宿發 午前七時四十分 池袋發 午前七時四十分 所澤着 午前九時十分 約五分後着校 川越線 武蔵野線	學校 ↓ 自動車 ↓ 所澤駅 ↓ 汽車 ↓ 東京 學校發 午前七時五十分 午後一時五十分 所澤發 午前七時五十分 午後一時五十分 新宿着 午後一時四十分 池袋着 午後一時四十分 川越線 武蔵野線

(御注意)

武蔵野線ハ三十分以上延着セシントアリタリ

大正九年陸軍航空學校大正九年度第一回甲種學生

六月廿八日
修業式次第書

一 依仁親王殿下 御差遣同日午前九時三十分 御着校

御着校ノ節參校奏任官以上、校附諸官及學生ハ指定ノ位置

ニ奉迎

校長 御休憩室、御先導 御休憩

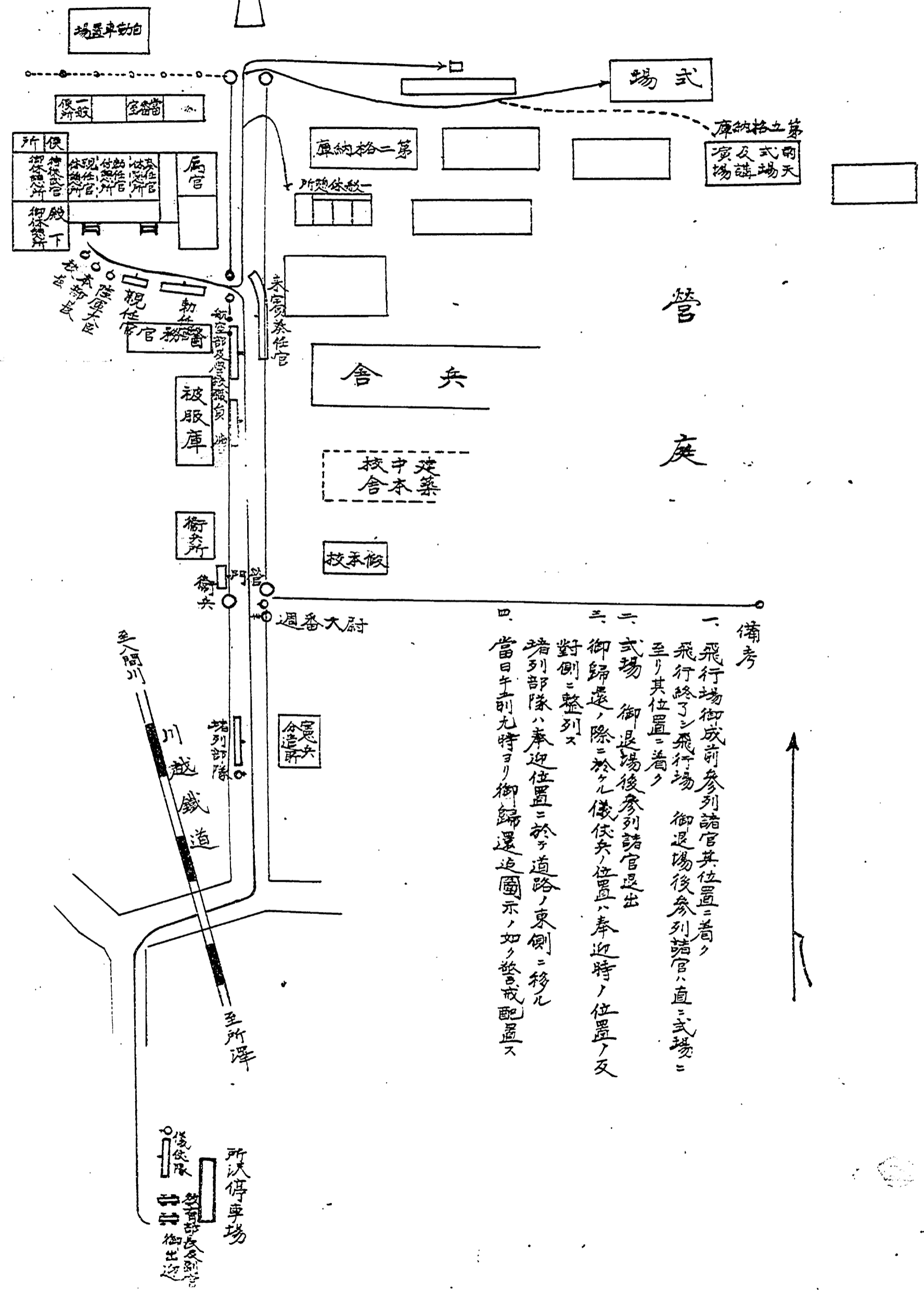
二 參校勅任官以上及校長 拜謁

三 校長 教育ニ関スル書類捧呈ス

- 四、校長 飛行場へ 御誘導
 修業學生ノ飛行（雨天ノ場合ハ格納庫内ニ於テ優等學生ノ講演）
- 五、御退場 校長 御休憩室へ 御誘導暫時 御休憩
- 六、校長 御先導式場ニ 御臨場
 御賞品 下賜
- 七、御退場 校長 御休憩室へ 御先導暫時 御休憩
 御發
- 八、御歸還ノ節ハ奉迎ノ位置ニ於テ奉送

略圖參照

飛 行 場



管 庭

備考

- 一 飛行場御成前参列諸官其位置ニ着ク
飛行終了シ飛行場 御退場後参列諸官ハ直ニ式場ニ
至リ其位置ニ着ク
- 二 式場 御退場後参列諸官退出
- 三 御歸還ノ際ニ於テ儀仗兵ノ位置ハ奉迎時ノ位置ノ反
對側ニ整列ス
- 四 靖列部隊ハ奉迎位置ニ於テ道路ノ東側ニ移ル
當日午前九時ヨリ御歸還迄圖示ノ如ク警備配置ス

67

重宝二五〇

九、四、二三
 次喜隊の件
 古昔の事
 次喜平当ノ件
 昔二平一毛子ヲ以テ此依新致々本件ニ関ス様次ニ才一四八ノ事
 答申各月首取様取字ハ昔隊現魚ヲ記載セシムル也認メ之々条以
 手取字アリ昔隊平当ヲ受ケテ人々ハ取ニヨリ果ホテハ取調ヲ煩ガ
 衣依新ス

(紙)

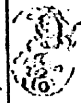
(録四四四)

0290,

航空部

一四八三子

大正九年三月二十九日



福岡横須賀海軍航空隊副長



大関海軍省軍務局航空部員殿

航空手當ニ関スル件

軍第一二七號ヲ以テ御依頼、本件別紙ノ

通リニ有之候条

右回答ス

(別紙壹葉添)

終

軍第八八號

海軍

三月廿一日
軍務局

0291

計	兵	下士官	准士官	操縦教官	装璜		官佐		計	平均	取得月額
					常務	臨時	常務	臨時			
440	190	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
137	32	198	2307	150	9.58	133	10.00	133	10.00	10.00	
44650	16100	6050	12000	9230	12000	32350	2000	1000	1000	1000	
492	190	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
1006	47	17	2997	215	1740	1000	1000	1000	1000	1000	
96600	28300	61600	21000	9990	1800	69600	2000	1000	1000	1000	
950	135	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
17	60	100	2658	126	1528	100	28.00	100	28.00	28.00	
10800	6180	2050	2700	21850	5000	11150	600	2800	2800	2800	
950	135	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
199	69	57	2691	899	1227	16	28.00	16	28.00	28.00	
109930	26190	21000	11000	22800	3930	12710	900	2800	2800	2800	
950	135	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
190	57	105	2240	186	693		22.00		22.00	22.00	
105030	17800	1720	2200	1050	2700	0	22.00	0	22.00	22.00	
950	135	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
100	34	37	2619	931	902	2100	13.00	2100	13.00	13.00	
20090	12180	9200	10000	10000	3050	3200	10000	600	600	600	
950	135	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
17	59	50	1200		906						
60050	5210	7000	11000	11000	0	59050	0	0	0	0	
950	135	27	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
26	51	35	2706	131	1181	16	10.00	16	10.00	10.00	
26160	11250	6900	9000	1050	9900	4000	10.00	4000	10.00	10.00	
991	133	26	6	2	50	5	2	5	2	2	
37	402	260	3503	107	1133	280	17.00	280	17.00	17.00	
100000	10000	13100	6700	21000	5500	2700	12.00	2700	12.00	12.00	
650	133	127	7	2	40	6	1	133	10.00	10.00	
10	35	13	1735	93	923	57	9.00	57	9.00	9.00	
100180	4530	6150	3100	10150	1700	37600	900	900	900	900	
999	139	27	7	2	40	6	2	133	10.00	10.00	
32	48	55	2015	825	2120	273	15.00	273	15.00	15.00	
100900	10000	10500	10100	28010	2650	10000	1000	3000	3000	3000	
9892	1092	290	67	77	970	52	13	52	13	13	
300	67	239	29919	3546	12037	1007	19.00	1007	19.00	19.00	
100000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	
283	566	1758	26144	3500	122468	14153	14.53	14153	14.53	14.53	
100	100	1000		1.50		2.00					

大正八年年度公平取得月額

1933 561 1951 26744 3500 12468 14153 14.53

00

0292

計	兵	下士官	准士官	標級教官	特等		尉		官佐		計	月
					即置	特等	常務	特等	即置	特等		
285	76	9	1	9	90	6	2	1000	1000	1000	1000	四月
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	五月
290	76	12	9	9	90	6	2	1000	1000	1000	1000	六月
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	七月
300	78	12	9	9	90	6	2	1000	1000	1000	1000	八月
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	九月
310	78	12	9	9	90	6	2	1000	1000	1000	1000	十月
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	十一月
320	78	12	9	9	90	6	2	1000	1000	1000	1000	十二月
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	合計

大正七年度分平均取得月額

備考

計	兵	下士官	准士官	操縦教官	警備		給養		官佐		計
					警備	警備	給養	給養	官佐	官佐	
189	72	7	5	1	27	4	0	給	四	大	正
21	576	3211	1162	300	2189	900	0	計	月	六	年
24890	9160	9150	25100	2210	52855	26800	0	給	五	度	今
190	14	7	5	7	27	9	0	計	月	均	取
59	10.6	5714	9039	214	3178	1400	0	計	六	得	得
135100	1160	1900	9000	20190	1800	24150	5600	給	月	月	額
201	75	6	7	7	28	4	0	計	七	計	
99	94	3233	3343	1421	2815	1900	0	給	月		
123610	9890	12100	2000	1580	9250	28800	5600	計	八		
200	75	6	9	7	27	9	0	給	月		
92	70	273	425	514	1612	950	0	計	九		
95100	18100	5550	20100	12000	36000	47500	5900	給	月		
242	70	6	4	7	29	3	0	計	十		
17	306	1233	3192	935	1606	1933	0	給	月		
71120	9200	2350	1100	12570	6550	30550	6800	計	十		
240	70	6	6	7	29	4	0	給	月		
115	59	350	164	707	1201	250	0	計	十		
69850	2710	9150	2100	9200	4950	2450	3900	給	月		
187	87	5	4	7	77	3	0	計	十		
14	105	30	2635	1321	1272	1266	0	給	月		
52130	7500	1750	400	9740	9250	22650	5600	計	十		
70	70	6	6	7	19	0	0	給	月		
106	31	156	1620	878	1426	900	0	計	十		
52150	2600	2200	900	16150	1150	28250	2800	給	月		
213	70	6	8	7	36	8	0	計	十		
31	12	333	2591	257	2352	195	20.10	給	月		
125900	640	9900	20100	4130	7800	29900	1400	計	十		
220	6	6	6	7	38	7	1	給	月		
14	33	316	2670	914	1777	1210	21.00	計	十		
11466	3030	2150	1900	5120	2700	7800	1200	給	月		
270	81	6	6	7	38	7	0	計	十		
17	29	333	2258	1150	2031	1414	0	給	月		
17998	9530	3150	2010	12250	10300	24200	10000	計	十		
231	81	6	8	7	38	5	0	給	月		
153	113	700	4063	287	295	1680	21.00	計	十		
16116	10600	9000	5000	32500	23000	22150	2600	給	月		
2038	271	14	569	25	101	67	5	計	十		
903	713	9229	3014	2998	2715	4888	0	給	月		
12219	9190	54550	28300	11800	13300	22800	1200	計	十		
1372	612	3554	2784	733	21219	12024	7224	計	十		

大正六年度今平均取得月額

0294

20.100

常時搭乗ノ配置ニ在ル者以外ノ本隊員ハ全部時々搭乗ノ配置

ニ在ル者トス

一、乗数ノ月々ニ異ルハ隊員ノ異動ニ依ル

0295

海軍

大正九年三月六日

大正九年三月六日

海軍省 海軍部 海軍大臣 青木 義典

海軍省 海軍部 海軍大臣 青木 義典

海軍省 海軍部 海軍大臣 青木 義典

大正九年三月六日

海軍省 海軍部 海軍大臣 青木 義典

海軍省 海軍部 海軍大臣 青木 義典

海軍省 海軍部 海軍大臣 青木 義典

0296

大工 年分平均所得月額

職名	年分平均所得月額											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
佐官												
少佐												
中佐												
大佐												
少将												
中将												
少将												
大尉												
中尉												
少尉												
下士												
兵												
備考	一、必要大工事吃ノ代金											

龍空

物心權杖呈持の事

役意書之書完件

近ク祖伝ニ役意書ヲオクテ
採昔布セルハ予定ニ有之ルニ就テ
役意科名ニ書完 祖伝職名服用規程書
不詳ノ自地事
致シハ先子ニ封之儀見至急承リ
九弟人々

16 軍第四〇〇號

別冊

0298

別紙第三三〇番

大正九年七月二日



七月六日

福岡横須賀航空隊副長

大関軍務局航空部々負殿



航空長官閣下

軍第四〇〇號ヲ以テ御照會ノ本件ニ對スル意見

別紙ノ通リ有之

右回答ス

追而本件ニ當隊司令長官意見付為念

別紙添付

軍第四〇〇號ノ二

0299

意見

本件ハ若宮級ノ母艦及其他軍艦ニ適用スル範圍於
テ原案ニ同意スルモ多數ノ航空機ヲ搭載スル大型
母艦ニ對シテハ尙十公頃重カク研究ヲ要スモト思フス
進テ本件實行ニ際シテハ事前ニ於テ飛行機發動機
附属兵器及搭載兵器等ヲ航空長主管トシ兵器
需品ノ經理規程及兵器簿需品定額表等攸
正ヲ爲スヲ要ス

(終)

0300

二行毎二行ノ立行ヲオクスト

海軍

第八章ノ二 役室長

一 役室長ハ其ノ担任ノ事項ニ関係スル事項ニ有艦長ノ職務ヲ補佐ス

二 役室長ハ役室科ノ部署ニ関スル訓練ヲ監督シ之カ方針計画ヲ定メ其地ヲ指揮監督シテ其ノ執達訓練ニ努メ又役室科ニ関スル

一 役ノ發着ヲ描画指導シテ之カ進歩者ヲ因ル

三 役室長ハ其ノ責任ノ履行ニ有艦長ノ職務ヲ補佐ス

(明正印録)

0301

<p>性純用法。効力及其ノ現状ヲ知悉シ分擔者ヲ督勵シ他ノ主反 若ト怯力ニテ之ヲ懲備保存ニ且其ノ充實ヲ因リ以テ常ニ運用。</p>	<p>文傳ノカラシメ時<small>依此書</small>法用<small>依此書</small>期<small>依此書</small>又消耗ノ節約ニ注カス</p>	<p>二法規ノ制限又予算ノ範圍内ニテセテ又併存スルヲ努ケル</p>	<p>四 決算時 決算表又附屬書寫ノ權限ヲ行使カシテ用ニ關シ支分大石交練 決算表ハ其ノ主眼ノ物件ノ異狀欲換スルヲ其見シタルハ其ノ 予因ヲ精査シ必要ト認ケルモノハ之ヲ極力ニ報告スル。但シ事情重 大ナルハ先其ノ概要ヲ報告シ又緊急ノ場合ニ此ヲ報告スルハ先 通算必要ニテ手短カハコトヲ得</p>	<p>五 決算表ハ其ノ主眼ノ物件中改造 修理 検査又ハ種類ノ変更等 等ノ増減等ヲ要スルモノアトキハ理由ヲ具シ之ヲ極力ニ報告スル。但</p>
---	--	-----------------------------------	---	---

(明正印刷)

期スルハ先其ノ概要ヲ報告シ又緊急ノ場合ニ此ヲ報告スルハ先通算必要ニテ手短カハコトヲ得

0302

之乗員ノ手ヲ施行シ得ル検査修理等ミテノ事致輕微ナクハ此ノ作ニ在ス。

七 此 改定長ハ其ノ主長ノ物件中乗員ノ手ヲ施行シ得ル検査修理輕便ノ手入等ヲ要スルモノトキハ必要ノ人員ヲ副長ニ請求シ又ハ之ヲ施行ヲ分担者ニ指示シ若ハ他ノ主任者ニ之ヲ委託ス。

八 此 改定長ハ其ノ主長ノ物件ノ改造修理検査等ヲ施行スルキハ其ノ代業ノ狀況ヲ監視シ又乗員等ヲ限由差ハ錠及スルニ當リテハ予知ノ由テ之ノ量ノ多寡等ニ注意ス。

九 此 改定長戦闘後ニ其ノ主長ノ物件ノ故障ヲ極度ニ防止シ得ル取之ヲ修補シテ後ノ戦闘ニ必要ノ準備ヲ為ス。

(改正印刷)

十

九 收支長ハ其ノ主管ノ物件中 重要モノ、移動 積換ヲ行ハントスルハ
予メ極長ノ許リヲ受ケ又極ノ釣合ニ大ナル影響ヲ及ボス場合ニハ
之ヲ收支長ニ協議スル

十 收支長ハ收支科員ヲ誘導監督シ常ニ其ノ服勞ノ状況ニ注意シ
之カヤ幹技純 性行 健全等ヲ詳知シ下士 服勞ノ健康ニ関シテハ
其ノ職ニ考慮スル

十一 收支長ハ副長ノ指示ニ依リ收支科ニ充當スル下士 服勞ノ配置ヲ
立案スル 配置変更ヲ要スルキ亦同シ

十二 收支長ハ收支機 付屬兵器 火工等ノ取扱使用ニ関シ特ニ注意
尤注意ヲ拂ヒ萬一ノ変災ナカラセトシ努力スル

十三 收支長ハ其ノ長官 糧油俸ノ概ニ注意シ其ノ儲蓄血尾ヲ適當行フコト留意スル

0304

十、^五 波室長ハ主賓兵部ノ者ヲ検査欲シ走ニ為シ得ル限カ修工ヲ行フ

一

風力強又ハ

十四、^七 波室長ハ極ノ動揺傾斜甚シキトキハ波室長ノ差正維持ニ付

充分注意ヲ拂フニ必要ト認ムルトキハ波室長ニ申

出ス

之カ処置ニ関シ

十五、^七 波室長ハ戦則 却署 由規 操式 爲死 其ノ他諸法規脚令條件

其ノ所掌ニ関スル事項ヲ執知シ其ノ發給適切 行ハヤ不ナラ監視

上又之ニ関シ意見ヲ有スルトキハ波室長ニ提出ス

十六、^八 波室長ハ其ノ所掌事項ニ関スル諸報告日ノ明表ニ任ス

十七、^九 波室長ハ其ノ所掌事項ニ属スル圖書 帳簿 記録類ヲ保存整理ス

(明正印刷局)

海軍

此 役主長ハ必要ニ於テ役主長ヨリ準備ヲ命令ノ傳達 自己ノ

令書ヨリ知基ノ他必要ナル事項ヲ記載シ關係者ノテ閱覽承知

セリ

其 役主長其ノ職ヲ退ク時ハ担任所事項ニ關スル事項其ノ他必要ナル

ヲ新任者ニ引継キ且直接係員ノ諸物件ヲ授受シ終テ新旧任者

共ニ之ヲ直轄及別長ニ提出ス

後任者ナリテ職務引継キ時其ノ主長ニ屬スル物件及他衣服器具等ヲ引継キ前項準

三上 役主長ハ所諾条ノ規定ニ依ル外予備役ニ在リテハ該役準備ノ整頓

ニ從事ス

(明正印附給)

0306

107
107
107

才百三

<p>ノ二 業收主長ハ收主長ノ命ヲ承ケ收主長主長ノ任付 任付職掌ヲ及出 傍子ノ出納修理ニ関スル事アリ又分隊長ノ分担ニ属スルモノ外 之カ整備支掌係長等ヲ担当シテ之ヲ諸隊員有教ニ保持ス</p>	<p>ノ三 業收主長ハ属由ヲ見廻リ收主長主長物件ノ現状ヲ熟知シ其ノ異状 及カ又ハ検査修理ノ必要ヲ認メタルトキ速ニ之ヲ收主長ニ報告シ且關係 分隊長ニ通報ス</p>	<p>ノ四 業收主長ハ補修主長物件ノ改造修理ヲ行フトキ其ノ作業ノ適否及進 捗ノ状況ニ注意ス</p>	<p>ノ五 業收主長ハ收主長ノ命ヲ承ケ直接担当ノ物件ニ関シ整頓手入等ノ為</p>
--	--	--	--

(真正印綴納)

海軍

0307

兵備ヲ要スルトキハ之ヲ事業諸君ニ託シテ記帳シテ列長ニ提出ス

ノ六、事業諸君ハ收支帳目主長ノ爲備子ヲ領収又ハ還納スルニ當リテハ其子實

又数量ヲ精密ニ検査ス

ノ七、事業諸君ハ收支帳目主長其傍子ノ在由ニ關スル諸帳簿書類ヲ保管整理

シ毎月一回收支帳目ノ査閲ヲ受ク

ノ八、事業諸君ハ努メテ消耗子ノ節約ヲ図リ其ノ用途ヲ監視シテ之ヲ使用

ス者致高切ナラシム

收支帳簿書類ハ戦時中ハ時時收支帳目主長ノ命受ケテ之ヲ保管ス

ノ九、事業諸君ハ戦時中ハ直轄地物件ノ欲換カラ調査シテ之ヲ收支帳目

報告シ其ノ命ヲ承ケテ之ヲ修補ニ從事ス

(真正印刷)

ノ十. 掌儀室長ハ夜中時ニ夜室杖ノ繫止. 輕油障ノ面風其ノ他夜室長室長

移動物件ノ固縛久異状ノ有面ヲ候ニ夜間ハ夜室科員ノ補助ヲ得テ
時ニ其ノ状況ヲ当直將校ニ報告スニ.

ノ十. 掌儀室長ハ夜室長ノ命アトキハ夜室ニ關スル處者ノ書地ヲ補助スニ.

(整備部員ニ特力スル)

ノ十. 掌儀室長ハ夜室科准士官以下ノ勤務ニ注意シ其ノ才幹技能性行健
在等ヲ詳知スニ.

ノ十. 掌儀室長ハ前諸条ノ規定ニ依ル外夜室長ノ命ヲ承ケ服勞スニ.

持別責任

ノ十四. 掌儀室長ノ外夜室科員ニ准士官ハ夜室科員ノ命ヲ承ケ服勞スニ

併征長ノ定ル所ニ依リ辭其ノ職ヲ分擔スニ.

至急

69.

第一号

海軍部

<p>大正九年三月十日 九三二〇</p>	<p>山田操波隊司令官 高橋波室印長</p>	<p>飛行時不時災害回復ノ件</p>	<p>機中隊開航以來ノ飛行機送る時救内火式高遠救助艇ノ救 助ヲ要スル認めル不時災害回復最速ニ於テ平均飛行時救(一日 差々)月単位)至急以取調ノ上回答ヲ得云</p>	<p>机中隊ス 進テ在件ノ救助用史使ノ使用時救決定上ノ参考ニ成ルシ夜モノ</p>
--------------------------	----------------------------	--------------------	---	--

海軍

0311

軍務局

大正九年六月十九日

航空部高橋
山内海軍航空隊司令

高橋軍務局航空部長殿

第一課

一航空船ニ関スル意見

大西大尉

右御参考迄ニ送付ス

(別紙添)

終

0312

航空船の意見
海軍大尉 大西流

航空船の意見

小型軟式航空船飛行場トシテ迄ノ追込ニ於テ陸上設備・着手セラレ由
テド小官ハ一時所決リ使用スルニ意見アリ有レ居リ 飯倉大尉 飯倉
上此ノ意見陳述サレ依テ置キタル事アルハ憂アリシテ以テ別項
ヲ取り敢ス電報シテ

電文要水

小型軟式航空船実験並ニ練習場トシテ追込ニ永久的ハ勿論 一時的施
設モ行フコトナク適當ニ飛行場ニ永久的設備ヲ完成ス迄所決軍用気
球研究会用格納庫及ヒ瓦斯發生装置ヲ使用スルノ方法ヲ探ラレント
一ヲ希望具申ス
理由次ノ如シ

(a) 追込ノ地勢ハ航空船ノ実験並ニ練習場トシテ適當ナラス

(b) 所決ハ航空船ノ飛行場トシテ適當ナク其ノ格納庫ハS.S.式ハ勿
論ハS.S.式ノ格納庫ニ適シ其ノ瓦斯發生装置電気分解法ハ「シリコン」式
ニ比シ甚ク経済ナク

(c) S.S.式ハ其ノ能力艦隊トノ連繫作業ニ充分ナラズ本実験ニ次ヲ直チニ
S.S.式ニ最新大型ヨハルセル式ニ着手スルハ急務ナリ今S.S.式ニ對シ

一時的ノ規模ノ施設ヲ行フモ一年ヲ要シテ拡張更ノ必要ヲ生ジ陸
上設備ニ不経済ナル多額ノ費用ヲ要スルコト明カナリ故ニ此際利用シ得
ルモノニ對シテ此ノ節約ト比較的安價ニ瓦斯ノ使用トヨリ直チニS.S.
式ニ對シテ

(d) 所決ハ飛行場トシテ一時使用スルモ海軍演習等ニ際シテハ必要ナル地是ニ
柱リ設置シテ之ヲ根據地トナスハ容易ニテ何等ノ差支ナシ

(終)

右電文ニ依リテ小官ノ真意ヲ盡サントコアラテ更ニ航空船ニ對スル小官ノ
目下ノ意見並ニ右ニ對スル理由ヲ取りマセ御参考迄申進ス

航空船ニ関スル意見

(A) 海軍作戰ト航空船

海軍作戰ト航空船ノ論スルニ先立テ航空船ノ種類ト其ノ主要途ヲ以
テ分スルハ大體ニ於テ次ノ如クナラザラ得ベシ

硬式航空船

航続力 三〇〇哩—一〇〇〇哩

用途 大距離ノ偵察 艦隊哨水艦隊トノ連繫作業 商船隊護衛

大型軟式航空船

航続力 一〇〇哩—三〇〇哩

用途 中距離偵察、艦隊潜水艦隊ト連絡作業、商船隊護衛

(1) 硬式航空船 用途 沿岸海峽巡邏、偵察、潜水艦隊、航空隊見

硬式航空船ハ速カヲ主トシタル中型(容積約三〇〇〇立方米) (独ノ「ボートン」)
型或ハ英ノR80型)ト航続カト搭載カト主トシタル大型 (英ノR33、R34、R38、R型五(容積約六〇〇〇一七〇〇〇立方米) 独ノ戦後後期使用トシテ者(五〇〇〇一七〇〇〇立方米) 又ハ独ノ細背改裝機用トシテ計画セルモノ(容積一八〇〇〇立方米)

(航続カ一〇〇〇哩以上) トラ向ハズ其ノ主要途ハ大距離ノ海上偵察、艦隊ト連絡作業ヲ主トシテ其ノ通信能力ハ無線電信送受方向探知ニ〇〇〇哩無線電信送受一〇〇哩内外及ビ索敵ノ休養設備充分ナリ

(2) 大型軟式航空船

大型軟式ハ英ノM型又ハ独ノ最新「ハセバル」型ヲ以テ其ノ代表トスベリ容積約一〇〇〇〇立方米ニシテM型ハ其ノ多ク如ク北海ニ於ケル艦隊ト協同作業ヲ主トシテ務トシタルナリ勿論三〇〇哩以下ノ作業ニ於テモ昇降カ速カノ大ニ硬式ヲ可トスルモ其ノ價額ノ小ナルト格納ニ便宜又戰時急造ニ適スル等ノ性能ヲ有スルヲ以テ將來硬式ト併ビ使用セラレヨクシテ通信能力ハ電信送受五〇〇哩電信送受一〇〇哩内外及ビ

(3) 小型軟式航空船

小型軟式ハ我が海軍ニ於テ目下英國ニ於ケル最良ノモノトス容積約三〇〇立方米全速五五節ニシテ一五時間 經濟速力三〇一四〇節ニシテ三〇一四〇時間ノ航続カヲ有ス通信能力ハ電信送受三〇〇哩電信送受五〇〇哩ナリ航空船ハ飛行機ヲ以テ防禦セル都市ノ攻撃等ニ適セルモノ(但シ小型戦闘飛行機ノ飛行ト多数ノ機関銃ノ装備ニテ敵少敵飛行機ニ対シテハ相等ノ防禦力ヲ有ス且ツ不燃瓦斯「ヘリウム」ノ實用ニ適スルニ至ル本要途ニ對シテ大ニ價値ヲ有ス) 敵飛行機ニ遭遇ノ機會少シ海上ノ作戰用トシテ飛行機優

越ル諸種ノ性能ヲ有スルハ明カニ事實トシテ今最モ飛行機ニ比較シテ顯著者ニ特性ヲ異ラシムルハ(1) 航続カ通信能力大ナリ (2) 大硬式ハ五名乃至六名ノ發動機ヲ有シ等々交番使用シ又故障ニ際シテハ空中ニ於テ應急修理ヲ得ルヲ以テ絶対的ニ信頼スルニ足ル猶ホトト全無ノ發動機故障トモ此直チニ

乗員ノ死傷問題ニテラス(3) 天測又ハ方向探知ヨリ位置ヲ容易ニ知ルヲ得ルヲ以テ艦隊同様に航空スルヲ得(4) 索敵ニ對シテ充分ニ休養設備ヲナシ得ルヲ以テ長時間ノ航空ニ何等差支ラズ(5) 速力仕志スルヲ以テ艦隊ノ警戒非同任最モ適ス(1) 速力ヲ要ホセザル哨戒勦撃力ニ適ス

我海軍ノ戰略ハ水雷艦隊ヲ以テスル夜戰又潜水艦隊等ヲ以テテ主力艦隊ノ敵ニ於テハ劣勢ヲ補ハントスルヲ以テ吾人ノ知トシテ西シテ奇

兵ハ敵ノ虚ヲ衝クテリ敵ノ弱莫ニ業ズルニアリ敵ノ意表ニ出スルニアリ其ノ最
 モ必要トスル所ハ同密敵活ニ敵其偵察アリ水雷戦隊又ハ潜水艦隊
 ヲ機ニ志シ適時ニ適地ニ於テ敵ヲ要撃スル又別項ニ於テ述ベントスル飛
 行機雷ノ活用ハ硬式航空艦ノ有ルニ能力ニ待タズバ何カ是ヲヨクセシ彼ノ
 「ゼット」海戦ニ於テ敵ヲ発見シ機後レ且潜水艦トノ通信阻絶レ
 (モ時回戦式格納庫ヲ有ズ時侯モ風向不良ニシテ機ニ志シ格納庫ヨリ出ス
 コト能カリトモ)多敷ノ潜水艦 参カレ得ザリトモ今 20ノ偵察ヨリ適
 當ニ時機ニ潜水艦隊ヲ適地ニ使ハシ佳中ニ得タリトモ政州ノ現状ハ全ク
 転倒セモノナラシ然リト雖モ本海戦ニ於テ独艦隊ノヨリ莫力艦隊ヨリ
 避戦シ得ニ余ク 20ノ功ニ飯セザルベカラス 其他一九一六年独艦隊ノ何事
 損害ナリテ Scarborough 砲撃ノ冒険ニ成功セ又ハ英巡洋艦 *Scout*
Kingman *Falmouth* 及 *Jaguar* ニ於テ潜水艦攻撃ノ成功ノ
 如キ 20ノ功績ニ飯セズバタラス 世人航空艦ノ價値ハ海上作戦ニ於テ
 ズヤモスレバ 20ノロドレシ 爆撃攻撃ノ失敗ヲ以テ之ヲ無用ノ長物視
 スルハ大ナル 謬見ト言ハザルベカラス 戦役ヲ通シ独海軍ガ北海ニ於テ 20ノ
 活動ニ依リ利セント言 極ノラ大ナルモノアリ言ヲ待タズ
 戦役中航空艦ニ於テ長足ノ進歩ヲナレタハ英因テ戦役初期ニ當リ三
 隻ノ実験用軟式ヲ有シ英國ハ戦役中軟式硬式ヲ通シテ二〇隻以上ヲ
 製造シ休戦時役残カマラシモノ一〇三隻ニ及バテ海上作戦上如何
 ニ有効ニテ痛切ニ其ノ必要ヲ感シタルハ想像ニ難カラス特ニ 20ノ
 無用ノ長物ト公言セルニ係ラズモ休戦時々硬式ノ研究建造ニ従事セル
 其ノ海上作戦上大ニ價値ヲ認メタルニアルハ言フマタズレテ明カナリ

戦役中英航空艦ノ主要處ヲ大別スレバ次ノ如シ
 一、海上各種部隊トノ連絡偵察作業
 二、対潜水艦艇生機雷発見
 三、運送艦ノ護衛警戒 商船ノ監視
 戦役中ノ全飛行時数八九〇〇時間其全航程二二五〇〇〇哩ナ
 リ此ノ内 20ノ偵察機ハ其ノ業ヲ輕シ洋艦又ハ駆逐艦ヲ以テアシント欲セバ
 少クモ 20ノ偵察機ヲ要センコト艦艇ニ比シ其シ大ニ視界ヲ有シ又機雷敷設
 面ノ如何ヲ向ハス行動ニ得ルノ利莫ク有ス

今航空艦ノ戦役中ナレル詳細又ハ將來ニ於テ利用方法ノ細目ヲ
 述ブルノ余暇ヲモ要スルニ 航空艦ハ將來海上作戦ニ於テ *Scout*
 トシテ極メテ重要ナル *Patrol* 演習ニ於テ極メテ明カニシテ今ヤ其ノ價値
 能カテ論ズル時機ニアラス 特ニ我が潜水艦隊水雷戦隊ヲ善用セント
 欲ハハ有力ナル航空艦隊ノ具備ハ目下ノ急務ナリ

我海軍航空船隊、夏島ノ島影追込ノ一隅ニ於テキスヲテラス(国防ノ立脚点トモ大島ヨリ推折シ理想ノ地ニ理想ノ基礎ヲ固ムルニ直チニ着手セザルベカラズ)

(B) 我航空船隊政策ノ方針

前項ニ述ベタル如ク航空船ハ我国防ニ緊要欠クベカラズモノナバ直チニ之ガ完備ニ向ッテ着手セトセバ、吾人ノ到達スル問題ハ然ラバ何ソ以テ国防ノ大局ヨリ見テ航空船隊ノ完備ト林スルヤ授言スルハ戰時最小限容何ノ航空船及此ニ附随スル陸上設備ヲ要シ行ハ非此ヲ使用レテ時終何ヲ如何スル方法ニヨリ維持スベキヤ又如何スル方法階梯ヲ通ジテ其ノ完備ニ近クヤノ問題ナリ 是種ナラムワカレテ又極メテ緊要シテ大ニ研究ヲ要スル問題ナリ 吾人ハ航空船ニ對シ何等ノ基礎ヲ有セザル現状ヨリ一躍シテ其ノ理想ニ到達セトスルニテ、逐次之ニ向ッテ直ニベキト云フ候タゾド或ル理想ヲ認メテ之ニ近ク方針ヲ定メ出テスルヲ要ス而シテ出發セバ一步ノ「エアーレ」ノ消費ハ理想ニ達スル最短線トシテ、於テ一步ノ距離トシテ「ハザル」ガスノ其ノ速度ハ体力ノ堪テ範圍ニ於テ最大ナルヲ途ニ「兼レ得」ルモノアリ、然ルニ事ナク必ズ利用スルニ 是何人モ庶易ク知理ニテ又何人モ努力シテ不明ニシテ目的地ヲ誤リ又目的地ヲ認メズニテ彷徨シ又「飛」國上研究ニヨリ最良ノ道ヲ選ハフコトヲノ望ムルコト多クシテ達スベキ地ニ近クテ能ハザルコト多クナリ 吾人ハ航空船隊ノ創設ニ向リ特ニ此ノ感ヲ深クスルナリ 今建設セトスル一ハ飛行場一ハ燃料庫ト雖モ我が航空船隊完成ノ期ニ於テ必要適切ニ一分子多クコトヲ希望スルナリ其ノ道程ニ於テ大ニ變更ヲ要シ或ハ全ク不能ニ及スルコト多クナリ希望スル然レハ其場ヲサギノ姑息手段ニ此ノ結果ヲ豫ラシ「非」後ニ於テ二文措シ、自知らズニ終ルナリ 此等「釋」必「設」ノ贅言ニカガキモ過テ去テ事實ハ必ズシモ然ラザルヲ記スルナリ

(イ) 陸軍ト航空船

我航空船隊政策方針ノ具體的安ホハ、追テ具陳スベキ機アリ信ニシテ、二三差シテ必要ト信スル諸件ヲ述ベトス

陸軍ト航空船

大戰初期(西部戰線)ニ於テ航空船ハ陸軍トノ協同作業ニ至リテ「彈着観測」ニ使用シテモ飛行機能力ノ進歩ト共、到底之ハ「非」抗レ得ザルニ至リ以後陸上作戰ハ全然使用セズトシテ大戰ヲ通ジテ伊澳戰線ニ於テ伊國ハ、埃國都市ノ夜間爆撃攻撃ヲ使用シテ(伊國航空船ハ此ノ任務ニ對シ飛行機攻撃ヲ免ガレカクメ極メテ大ニ勝力ヲ要求シテ運カサリ)然レハ之ニ「非」伊國ニ對シ爆撃攻撃ト同様陸軍トノ協同作業ヲ要スル航空機單獨

非戦闘 一九四一年一月迄

英國ハ ~~非戦闘期~~ 陸海軍ニ航空機ヲ有シタスモ此時既ニ航空機

ハ海上用ニベキモノナリ認メ全然ハ海軍ニモ移轉シタリ而シテ空軍ノ獨

後トモモ事實上海軍ニ属シ度リ休戦後入リテ航空機全然海

上作戦用ニハ海軍ニ属スベキモノナリト他ハ航空機ニ属スモノハ全

非空軍者ノ統轄スベキモノナリトノ兩意見 議合或ハ島島向テハ

ハセシタスモ結果本意初設、至リ今海軍者ヲ融シ空中者ハ海岸

部 (Catalal Area Head Quarters) 下ニ統轄サルニ至リ

米國ハ未ダ陸海軍ニ航空機ヲ有シ居ルモ米國ノ現状ハ多少英

國等ト差アルトモナリ 即チ其ノ陸上領域ハ大ナル陸上作戦ニ於テ

モ大ニ航続カヲ有ス 航空機ヲ以テ飛行機ニ優トリトス 特殊な場合

ナキニモアラズ 但シ將來ノ方針ニ関シテハ 矢ラス

要スルニ航空機ハ海軍用ニシテ陸軍用ニテラザル 其ノ責任全ク海

軍ニ存スルモノナリ 未ダ独ニ空軍ヲ有セザル 我が國ニ於テハ之ヲ海軍

ニ属スベキヤ又ハ空軍ニ属スベキヤハ海軍ノ時機ニアラズ

(四) 我が國ノ採用スベキ航空機型式

前述セシ如ク航空機ハ大体三者ニ區別スルヲ得且各獨特ノ要途ヲ

有スルヲ以テ三者ノ必要ニ言フ 佐々木即チ硬式ハ九州ノ根拠

地トレコヒリンセン カハハ トヨリ遠ク南ハ濃州 西ハ印度洋東ハハワイ

ニ至ル大海面ノ偵察又ハ教目ニ送ル艦隊トノ連繫作業ニ任ズベク

大型軟式ハ本州中部九州、台湾ヲ根拠地トシテ飛行動航程

二〇〇〇—三〇〇〇ノ出テフル偵察艦隊ト連繫作業、支那本島又ハ

漢ノ艦 航路ノ保安ニ任ズベク小型軟式ハ敵潜水艦ノソレハ

海峡附近ニ根拠地ヲ有シ迅速哨戒潜水艦攻撃等ニ任ズベキナリ

(ハ) 航空機根拠地

航空機根拠地ニ移動困難ニ大ニ格納庫及燃料貯蔵所と併結集

置テハ其ノ平時ニ於テ主要ナル航空機隊位置置、又戦時ニ要ス

ル地ナラシセル意味) 主要セザルモ其ノ周囲ニ開闢スル平地ニ要ス

又必スシモ海岸ニ近ク要セス及テ敵航空機ニ対ス安全上又自由

飛行地ニシテ相等内地ニシテトスベシ 航続時了敵口及

大型航空機ニ対シテハ海ニ出ルニ廿分一時間ノ航程ニ言フニ足ラズ

此等ノ見地ヨリスレバ平時ニ於テハ航空機隊ノ中心地即チ戦時ニ於テ

ハ硬式及ビ大型軟式ノ根拠地ハ九州北西部ノ平原ニ其ノ地ヲ選

ブ

ラ理想トスル而シテ平時ハ全航空船ヲ之ニ集中シ教育及ビ研究ヲ
ナスヲ維持上經濟トス、一方戰時ノ樞要地矣。軟式ニ對シ適度
ノ陸上設備ヲナレ置キ一朝事ニ際シテハ直ニ中心地ヨリ軟式ヲ派遣
分属セシム

(二) 航空船製造ニ関シ

我今航空船工業ニ着手セリトスルモ過去ニ於テ何等其ノ研究ナク
其ノ技術者ヲ有セサル今日飛行機工業ト同ジク取り取ズ先進國技
術ノ輸入ニ依ルノ外術ヲ求ルナリ而シテ我が採用セリトスル外國工業最
モ優秀ナルモノナラサルベカラズ

最近英國ハ航空船ニ於テ長足ノ進歩ヲシタリト云モ是獨「コッパ」
ノ模造ニ過ギズ Copy 南シテハヨク我國ノ輕經驗モ如ク Copy 外形
似テ實質ニ於テ Model ニ劣ルヲ常トス吾人未ダ精細ニ兩者ヲ比較
評價スルノ充分ナル研究ヲ有セザレバ莫ク硬式ハ又之ニ属スモノナラハ明
カナリ

一九一九年夏莫ノ R34 ハ莫本土教育向テ往復トシタリト云モ其ノ
二年前一九一七年秋独領東亞弗利加ノ危機ニ頻スマ此ガ救掩
ノタメ一獨硬式ハ十二噸ノ彈藥ヲ搭載シ「コッパ」ヤ「ラ」ヲ發シ地中
海ヲ横断シ「ナイ」川ノ上流ニ達セリ時恰モ其ノ降服ノ無綫電
信ニ接シタビ之ヲ中止シ航空時間向九六時了航程約四〇〇〇哩ニシテ

無事「コッパ」ノ根據地ニ返還セリ又以テ兩者ヲ比較スニ足ラレ
独逸ノ硬式ノ研究ニ着手セルハ一八二二年「ア」ニエール製硬式ヲ建造シ
タルハ一八九三年ニテ「セ」型硬式ノ飛行ニ成功セルハ一九〇〇年ナリ
然ルニ此ノ當時英國ハ我が國ノ常用手辰タル「ソ」ノコトガ出来ルモノカ
ソレトモ見テ居テウマクイフタラ「ソ」ノ習ハシ主我ヲ採リシモノ戰事當
初ニ於テ硬式ノ勿論有セズ軟式ヲ三隻有シ之ニ過ギズ中最佳アリシ

モノハ獨逸ヨリ買ヒタル「ハ」セル式ナリシリ而シテ英海軍ノ毘社、
硬式ノ試製ヲ命ジタルハ一九〇八年其ノ完成一九二一年ナリ然レバ此
ノ硬式ハ全然飛行スルコトヲテ失敗ニアリシエリ R.1 トナス次ノ硬式ハ R.9
ニシテ一九一六年末漸ク以テ飛行ニ成功セリ是ヲ以テ英國製硬式飛行
ノ嚆矢トス莫硬式ノ實質ニ於テ獨硬式及「ハ」トヨク又獨然ニ「ハ」ナリ

佛國ハ戰前航空船特ニ軟式ニ於テ最先進國タリト云モ戰時中
陸戰ニ全カク使テ中シ海上方面ヲ顧ミル余カナク航空船ニ於テ進歩
少ク目下英獨ニ及ハサルト云ハルガ如シ
要スルニ航空船工業ニ於テハ敗戦戰後ノ今日ニ於テ獨ノ第一
位ニアルハ明カナリ

故ニ我方針トシテハ独逸ニ於ケル適當ナル航空船會社ヲ買収シ
 之ヲ川崎三菱等大造船會社ト合併スルカ又此等大造船會社
 テ其ノ製造權ヲ買収セシムルト同時ニ多數ノ技術者ヲ傭聘セシメ
 我が國ニ於テ其ノ製造ヲ行ハシメ英國等ニ硬ビテ注文シ Copy Copy
 フルルノ愚ヲナスコトナシ。而シテ獨逸ノ過去數十年間數十億圓ノ費
 多數ノ犠牲者ヲテ完成シタル斯術ヲ最モ有利ナル条件ヲ以テ我
 ニ得ラレハ独逸ノ窮乏ノ今日ニテリ此機ヲ逸スベカラズ

(ホ) 航空船用發動機

目下英國ニ於テハ航空船用トシテ Sunbeam, Potts-Royce, Fiat
 ノ各種發動機ヲ使用スルモ独ノ Maybach, Mercedes 以
 テ多造カニシ優レモトス 航空船用ノ飛行機用ト其ノ要求スル性能
 ニ差アリ即チ航空船用トシテ最モ重要ナル性能ハ長時間ノ連続運
 轉ニ適シ且ツ燃料消費量ノ少キニテ每馬力対スル重量(以
 ハ飛行機用ノ如ク重要ナル点ニアラス而シテ獨逸系發動機ハ此ノ
 要求ニ適スルモノアリ又一般ニ航空船用發動機ハ機構簡單ニ
 シテ頑強ナル空中ニ於テ志意修理モ又容易ナリ。毘社ニ於テ目下
 建造中ノ R20 Maybach (独模造) ヲ裝備スル予定ナリ
 航空船用發動機ニ於テモ独式ヲ採用スル可トセン

(ロ) 雜件

(イ) 航空船根據地トシテ追込飛行場ノ價值

追込ハ三角山一面ハ直チニ油ミテ風アハ着陸ニ忌ムベキ上昇
 下降氣流ヲ生ジ今假ニ航空船發動機故障ニテ自由氣球ト
 ナリタルモノトセバ大ニ損害ヲシテ着陸スルハ不能ナルベシ 將來東京
 灣ノ附近並ニ本州東岸偵察巡邏用トシテ東京灣ノ附近ニ軟
 式航空船根據地ヲ要スベキモ追込ハ之ニ適スベシ多ク海岸ヲ遠
 カルモノナラハ開濶ナル平地ヲ選定スルヲ要ス兩般ヶ浦附近ハ多少内地
 ニ過グルノ感アルモ追込ニ優レト多造カナリ

(ロ) 所澤ノ使用ニ関シテ

今新シク建築セバ二百方町ヲ要ス格納庫及ヒ瓦斯發生装置
 ノ所澤ニアル係ハラスニテ使用セザルハ國家ノ大損失ナリ今ヤ
 陸海軍敵同志ノ團體ニ抽ヘラレハ時機ニテラス我が退歩セ
 ル航空界ヲ進歩セシムルハ兩者協同相助クベキナリ陸軍ニシテ
 知らズバ説明スル

(ハ) 軟式格納庫ニ関シ

S.S. 型ニ次テ直チニ S.S. 型又ハ最新大型ハルセバルニ着手スルハ

極ニテ必要ナリ 今追決ニ S.S.ニ対シテ格納庫ヲ建築スルモ此ノ研究ニ際シ「大ハヲ兼ヌルモ小ハ大ヲ兼ネザレバ」又 H.S.型ニ対スル設備ヲ全然別ニ行フ要アリ而シテ軟式ハ其ノ容積約一万余米ヲ以テ適當ナル最大限トスルバ之ニ対スルモ「計画スルヲ先見ノ明ニ以テ策トス且容積約一万余米 (H.S.ノ容積) ノモノニ何ニ対スル一棟ヲ計画スルヲ建築上經濟シテ且格納ニ便ナリ (S.S.型ニハ三隻ヲ格納シ得) (英) 國ノ軟式格納庫ニ此ノ方法ヲトレルモノ多シ」

(二) 水素瓦斯發生法ニ関シテ
 目下英國ニ於テ水素瓦斯發生ハ全部 Water Gas 法ニテ發生能カ一時向五〇〇〇—一〇〇〇〇立方呎ノモリヲ裝備ス此ノ方法ニヨリタル瓦斯一〇〇〇立方呎ノ經費ハ二一—五五占ナリ 戰時中小型軟式ノハ根據地アリテハ固定大型「リ」ヨリ此ノ裝置ヲ用ヒタルトコロアリタルモ甚ク高價ニシテ一〇〇〇立方呎ニヨリ四磅 (我國ノ費用約同) 價ニシテ平時ニ於テハ全然使用セズ 電氣分解法 戰時中一何所ニ於テ使用シタルモ是又水瓦斯法ニ比シ高價アリトテ使用セズ但此ノ價ハ全ク電氣ノ代價ニ見モノトシハ我が國ニテ水力電氣ノ低廉ナルモノヲ得ルニ其ノ結果如何トヤノ研究ノ必要アリ 特ニ電氣分解法ノ裝置同價單「コンパクト」ニシテ且作業員少ク Water Gas 法ノ檢モ製水飲所ノ煉礦爐ノ如ク大規模ニ裝置ノ復雜セシ比シ甚ク利益ナルモ矣アリ

独逸ニテハ Water Gas 法ヲ用フルトコロアリ是最モ低廉ニシテ最良ノ方法ト一般ニ認メラルモ英國ニ來ル此ノ裝置ナレ莫ノ現用 Water Gas 法ハ独ノ模造アリ瓦斯發生法ニ関シテモ必ズ独ノ方法カ「進歩セルモノ」アラント察セラル

(木) 独逸ヨリ分種「硬式」格納庫等
 近ノ硬式航空機トモ「格納庫」瓦斯發生裝置 (多分 Water Gas 法ヲ用ル) 思想ス「獨逸ヨリ分種」アル「予定」ガ如キモ之上同時ニ航空機製造ノ技術者、瓦斯發生ノ技術者、ヲ得ル「必要」アルモノトス

(ハ) 硬式航空機ノ製法ニ其ノ關係
 硬式航空機ノ製法ノ概數次カシ

- 船長 (少佐大尉)
- ※ 次席士官 (大尉)
- 三席士官 (中尉)
- 機長 (特進中尉)

機関長附(准士官下士) 一
 無線掛(下士官) 二
 操舵員(下士官) 二
 信号兼見張員(下士官) 二
 及發働機員(下士官) 八
 志急員兼砲手(下士官) 約一。
 航空中、收収、応レ直乃至三直勤務カトナス
 今硬式練習ノ目的ヲ以テ海外ニ人員ヲ派遣セリトモサテモ次ノ人員ヲ要スベシ

- 飛行機時技 二名 軟式ノ経験ヲ有スルモノ
- 地上指揮官 一名 軟式ノ経験ヲ有スルモノトナス
- 機関時技 一名
- 瓦斯技術者 一名

准士官下士官 約三十名
 R38 (米海軍ノ英政府ヲ讓受ケレモ)ノ曲航員トシテ米海軍士官大
 名下士官約五十名目下者 飛行機隊ニ於テ硬式ノ練習
 ニ從事シテ約一年 英國ニ於テ練習ノ後大西洋ヲ横断回航スル
 予定ナリ

(+) R.三八 (米海軍硬式)

全長	六九五呎
最大直径	八七六呎
容積	二七〇、〇〇〇立方呎
發働機	275 h.p. Junkers "Maack"
全昇騰力	八二噸
利用昇騰力	五〇噸
全送	七〇哩
航線力	四五哩ニテ二二時間
乗員	三〇名
航空機トシテ	四〇、〇〇〇ポンド

(+) 航空機ノ長時間大距離ノ航空ヲナスモノナレバ天候ヨリ航空高度
 針路ノ選定ヲ適當ニ行コト極メテ必要ナリ航空中時、無線電
 信言ハ天氣予報ト熱線ナル氣象學トハ判断トヨリ暴風圏低

氣圧圏ノ困難ニシテ得ル如シ

此等ノ關係上極メ老練ニ氣象學者ヲ得ル必要アリ

(1) 航空船隊ト人事

飛行機操縦ニ適スル年齢ニハ大体ニ於テ一八一四ノ制限アリ
又飛行機空中戦ハ漸次集團部隊ノ戰術トナリワ、アリト
虽モ多數ノ飛行機ヲ空中ニ於テ常ニ一指揮ノ下ニ掌握
スル極メ困難ニシテ各機ノ独断專行ニ待テ機令極メテ多
シ從テ一ノ飛行機ノ操縦者ト云モ精神的又戰術智識技
能ニ於テモ充分ニ訓練ヲ經タルモノハ其ノ操縦者
ハ各國ニ及ビ大部分士官ナリ又戰時ニ於テハ極メテ多數ノ飛
行機ヲ要スルニ從テ極メテ多數ノ飛行機操縦者ノ養成維持
ヲ要ス

此等ノ問題ハ飛行機ノ如何ニ方針ヲ以テ採用シ平時之如何
ニ維持スルヤノ困難ニ問題ヲ生ズルナリ

然レモ航空船ノ操縦タルヤ艦船ノ操縦ニ近ク大ニ硬ク着
陸ハ戰術艦ノ浮標懸留ニ比スルニ海上ノ優秀ナル船長
又ハ航海家ノ性格ヲ具備スルモノハ又大航空船ノ良船長ナル
ヲ得ベシ且ツ其ノ兼員ハ艦船ノ兼員ノ数ニ比スルバ及バザルモ

小型軟式ニ於テモ五名硬式ニ於テハ三十五名内外ノ兼員多ク
要ス此等ノ状況ニ艦船ニ甚ク近クモナリ從テ其ノ人事

ニ関シテモ飛行機ニ於テントヤト云ハルモノハ説明ヲ要セザル
目下英航空船隊ノ飛行機ノ大部ハ正規海軍機隊ヨリ取
リ入れモノナレド將來ハ空軍士官學校 (RAF Staff College)

出身者ヨリ採用スルニ正規トシ同時ニ海軍機隊ヨリモ之ヲ
採用スル方法ナカシ

(2) 我が注文セル小型軟式航空船ノ是員

船長兼偵察者	特技	一
操縦者	准士官	一
操縦船員(縦舵)	下士官	一
無線電信員	左	一
發働機員	右	一

勿論實驗時代ニ於テ操縦者モ特技ニベキモ將來ノ方針ト

シテハ右ノ如クテスル適當トセ

(3) 硬式航空船ノ特長

航空船中軍用特ニ平時交通機隊トシテ大ニ將來ヲ有スル

モノハ硬式航空船ナリ

硬式航空船ハ其ノ容積ノ増加ニ伴ヒ其利用シ得ル浮力ヲ甚
ダシク増加シ且ツ千万立方呎以上ノモノニ至ハ *displacement* ニ代フル

ニ鉄材ヲ使用シ一層堅牢ニシ且簡單容易ニ製造シ得ラ
レ從テ比較的安價ナルコトヲ得

現存スル最大ノモノハ其容量約三百立方呎ナルモ獨ノ紐育
攻撃ヲ討画セルモノハ六百五十万立方呎ナリ

英空軍省ノ發表シタル一千万立方呎ノ硬式ノ概略要目次ハシ

容積 一〇、〇〇〇、〇〇〇立方呎

全長 一、一〇〇呎

直径 一三五二呎

全昇騰力 三〇三六噸

利用浮力 二〇噸 (燃料兼及船体
重量ヲ考慮シ得ル)

全速 七〇ノ八哩

航続力 四五哩ヲ約三週向 約二〇、〇〇〇哩

最大昇騰高度 約三、〇〇〇呎

將來太平洋太平洋等長距離ノ交通ニ水上運輸ト共ニ此ノ

種ノ交通機関ノ何用ナルハ想像スルニ難カラス

(7) 戦時必要ナル航空船ト平時ノ維持ヲ

戦時必要ナル航空船ノ数ハ今ノ戦争ノ状況ニヨリテ変化スルモノニ

シテ此ノ問題ヲ数字的ニ解決スルハ困難ナドモ平時維持スルニ

数ハ大体ニ於テ左ノ要領ニヨリテ至当トセン

硬式ハ海ニ作戦ヲ常ニ必要トシ戦時同時其ノ適切ナル

使用ハ最モ必要トスルモノニシテ硬式ハ軍艦ト等シク戦時日

ヲ以テ建造シ得ルモノニアザレバ平時ヨリ相等ナル数ヲ維持スルヲ必

要トス

軟式航空船中大型ニ於テ其ノ範圍ニ於テ硬式ノ用途ニ代用シ得ル

モノトハ前戦時初ニ於テモ相等ナル数ヲ有スルコトヲ示シテモ小型工

軟式ハ戦況特ニ激激化般ノ行動ヨリ其必要ノ程度ニ差ク生ズ

ルモノヨリ軟式ハ適當ナル準備アル比較的短時日ヲ以テ製造

シ得ル平時ノ乗員ノ養成及ビ研究ノ範圍ニ其ノ数ヲ限リ一

方平時ヨリ製造機関ヲ完備シ製造材料ヲ準備シ風雲

急ナルニ際シ或ハ必要ナル急造製造シ得ルヲ方針トシテ

至当トセ

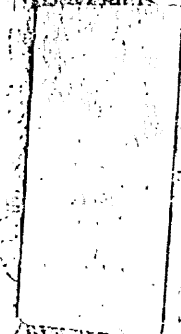
多量に生産を計画し且つ生産を速くし得る

終

0324

10

Handwritten text on the right edge of the page, possibly a date or reference number.



Main body of handwritten text in vertical columns, likely in Japanese or Chinese characters, though the characters are difficult to decipher due to the scan quality.

Handwritten mark or character in the top left corner.

0383

後記

横須賀海軍航空隊ノ沿革等

日本海軍カ飛行機ノ實地研究ヲ始メタルハ今日
 リ八年前ノコトニシテ其ノ後一千九百十六年四月一
 日ニ至リ横須賀海軍航空隊ヲ創立スルニ至レリ
 研究開始ノ際ニ於ケル使用飛行機ハ米國式カ
 千ストト佛國式ノ「モリス」フアルマンノ二種水上飛行
 機ニシテ之カ操縦者ハ外國ニ於テ教育セラレ漸
 次其ノ技術ヲ當地ニ於テ我海軍將校ニ傳授セリ
 今次ノ戦争ニ依リ航空術ハ軍事的ニ長足ノ進歩
 ヲ爲シタルモ我國ニ於テハ直接之カ刺激ヲ受ク
 ルコト少ナカリシ爲歐米各國ニ比シ尚甚々幼稚
 ナル状態ニアリ從テ本日 殿下ノ台覽ニ供スヘ
 キ何物ヲモ有セサルヲ深ク遺憾トスル處ナリ

女子機匠室
 傳授室
 女子機匠室
 傳授室
 女子機匠室
 傳授室

傳 圖

0325

目下當隊ハ二個ノ常備飛行機隊一個ノ氣球隊ヨリ
成リ外ニ學生練習生ノ教育機關トシテ練習部アリ
一個ノ飛行機隊ヲ附屬ス

水上飛行機隊氣球隊共ニ尙擴張中ニ屬シ航空船隊
陸上飛行機隊ハ北方ノ埋築完成ノ上設置ノ豫定ニ
シテ既ニ人員ノ養成ト材料ノ購買ニ着手セリ

現在當隊ニハ定員トシテ五十名ノ士官十六名ノ准
士官五百五十名ノ下士官兵ヲ有シ外ニ目下教育中
ノ者ハ航空術學生トシテ兵科將校七名機關科將校
三名飛行術練習生トシテ兵八名機體、機關術練習生
トシテ兵七十名アリ

現在所有ノ水上飛行機及氣球ハ左ノ如シ

英國式 ^{「イギリス」} 三百二十馬力 ^{「ソッピース」} 百十馬力

佛國式「デリエール」二百馬力及五百五十馬力「フアルマン」七十

馬力及百馬力

日本式 當工廠ニテ製造セシモノ百馬力及二百馬力

英國式 M型繫留氣球 九百立方米

總計約三十基ニシテ外ニ研究用トシテ小型陸上飛行機數基ヲ有ス

目下研究中ノ事項ハ大要左ノ如シ

艦上飛揚、飛行機ヨリ魚雷投下、空中通信、艦船ニ於ケル繫留氣球ノ利用法

當隊練習部教育法ハ概ネ左ノ如シ

兵科將校學生 教育期間 一ケ年

水上飛行機操縦術、航空原理、航空機構造、發動機學、氣象學、寫真術、偵察術及海軍兵術ノ一般

0327

機関科將校學生 教育期間 一ヶ年

航空用發動機ノ整備取扱ニ関スルコトヲ主トシ其ノ他兵科將校學生ノ教育科目ノ大部分ヲ教授ス

飛行術練習生 教育期間 一ヶ年

主トシテ飛行機ノ操縦者及機上作業者トシテ必要ナル教育ヲ施ス科目ハ大体ニ於テ兵科將校學生ニ同シク只其ノ程度ヲ低下セルノミ

機体、機関術練習生 六ヶ月

整備取扱者トシテ必要ナル教育ヲ施ス

以上飛行機ノ搭乗者タルヘキ者ハ採用前嚴密ナル身体検査ヲ行ヒ飛行術練習生採用時ニ於ケル年齒ヲ二十二年未滿トス

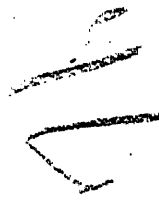
終

0328

L'histoire d'Aviation Maritime Yokosuka

Il y a huit ans, la marine Japonaise a été commencée l'éducation pratique d'aviation. Cette aviation était établie le 1^{er} avril 1916. Au commencement, on a acheté d'abord deux types des hydravions, c'est à dire, Farman Française et Curtis Américaine. Cette époque, il n'y avait ici que quelque officiers qui avait été appris l'art d'aviation en Europe. Ces officiers ont été només aux instructeurs d'aviation. Dès le commencement de la grande guerre de l'Europe, les arts d'aviation sont progrès extra-ordinairement; malgré cela, le Japon loin du champs de bataille n'avait pas l'occasion de grand progrès. En effet, je regrette que je n'ai nulle chose d'avoir l'honneur de vous faire voir.

0329



Nous avons ici deux escadrilles hydravion et une escadrille de ballons captives; et encore nous avons une école d'hydravion. nous avons bientôt nouvel endroit d'aviation en ensevelissant la mer du côté nord d'ici.

Maintenant nous avons 50 officiers, 16 adjudants, 550 sous-officiers et matelots, 7 élèves des officiers-pilotes, 3 élèves ingénieurs, 8 élèves pilotes des matelots, et 70 élèves-mécaniciens.

Les types de nos hydravions et de nos ballons sont: -

types Anglaise: Short (320^{PS}), Sopwith (110^{PS})

types Française: Tellier (200^{PS} ou 550^{PS}), Farman (80^{PS})

types Japonais: dessins de l'arsenal Yokosuka (100^{PS} et 200^{PS})

Ballon captive anglais Type M. 900 cub. metres.

Total nombres des hydravions sont 30, et nombres des avions du terrain 3 ou 4.

Nous avons en train d'étudier : Methods de depart des avions sur le pont des vesseaux, hydravions avec torpilles, communications dans l'air et utilisation des ballons captives sur des vesseaux.

Nos methods d'instruction sont :-

Pour les élèves officiers pilotes

Durée de l'instruction une année complète

espèce d'éducation Manoeuvre des hydravions, Aero-dynamique, Construction des avions, manières des moteurs, meteorologie, photographie, reconnaissance, tactique et strategie etc.

0331

pour les élèves ingénieurs

Durée de l'instruction une année complète

Espèce d'éducation: Principalement des méthodes
manier et arrange des moteurs et un autre des
espèces des éducations pour les élèves officiers-
pilotes.

pour les élèves pilotes de matelots, on fait apprendre
principalement les études nécessaires pour l'aide de
officier de pilote pendant une année.

pour les élèves mécaniciens, les études nécessaires
pour manier et pratique immédiatement des
avion, pendant une demi année.

Tous les pilotes, avant venir ici, doivent passé les

0332

examen de corps, et les élèves pilotes des matelots doivent
être âgés au moins 22 ans.

0333

M2 軍務局

大正九年七月	十三日	午前 午後 時 分	局發
發信者 第一船隊長	受信者 軍務局長 艦政局長 (81)	電報譯 (暗號)	本日午後若宮平郡島ニテ飛行機収容中揚艇桿破 損ニ飛行機一破損入補光飛行機二横須賀工廠ニ請求セリ 右為念通知ス
航空部	第一課		

(同正印付)

海 七月拾五日 軍務局長

0334

NOTABLE PERFORMANCES OF SEAPLANES AND SHIP AEROPLANES.

Type	Tractor or Pusher	No. of Seats	Engine	Normal H.P. and R.P.M. at G.L.	Lifting Surface	Speed in Knots.			Time in Mins., and Rate of Climb in Feet per Min.						Air Endurance	Service Ceiling (Feet)	Weight.					Loading.		No. and Date of Trial Report	
						At 2,000'	At 6,500'	At 10,000'	2,000'		6,500'		10,000'				Gross	Empty	Fuel & Oil	Military Load	+ Crew.	Lbs. per sq. ft.	Lbs. per H.P.		
									Time	Rate	Time	Rate	Time	Rate											
<i>Ship Aeroplanes—</i>																									
Parnall "Panther" ...	T	2	230 B.R.2. ...	228 at 1,300	325	—	94	89.5	2.3	795	9.3	545	17.1	345	4½ at 10,000'	14,500	2,595	1,328	541	366	360	8.0	11.4	M. 196.	5/18
Sopwith Camel ...	T	1	150 B.R.1 ...	150 at 1,250	229	108	105.5	103	1.8	1,278	6.2	752	11.4	541	—	17,500	1,530	1,036	223	91	180	6.7	10.2	—	10/17
Sopwith Torpedo ...	T	1	Sunbeam Arab ...	207 at 2,000	568	90.5	89	85	4.0	466	15.7	303	31.0	176	4 at 10,000'	12,000	3,883	2,199	405	(1) 1,099	180	6.8	18.75	N.M. 784	6/18
<i>Float Seaplanes—</i>																									
Fairey Campania ...	T	2	275 Rolls-Royce Mk. I	307 at 1,800	654	76	72	—	5.6	307	28.5	120	—	—	4½	7,000	5,406	3,613	783	650	360	8.3	17.6	—	9/6/17
Fairey 3a ...	T	2	Sunbeam Maori ...	265 at 2,100	570	79	75.5	—	4.3	410	19.5	210	—	—	—	9,000	5,083	3,423	610	690	360	8.9	19.2	N.M. 233A	10/18
Fairey 3c (Normal load)	T	2	Rolls Eagle 8 ...	359 at 1,800	476	96	93	89	2.3	794	9.3	510	18.0	332	5½ at 6,000'	13,000	4,800	3,392	878	170	360	10.1	13.4	N.M. 233	10/18
Fairey 3c (Over load) ...	T	2	Rolls Eagle 8 ...	359 at 1,800	476	87.5	83	—	3.7	500	16.5	246	44.0	48	5 at 6,000'	8,500	5,039	3,549	883	247	360	10.6	14.0	N.M. 247	3/19
Short Improved 134 ...	T	2	260 Sunbeam ...	265 at 2,100	680	73	72	70	6.3	300	26.3	165	—	—	4½	9,000	5,123	3,479	637	647	360	7.5	19.8	—	22/9/17
<i>Boat Seaplanes—</i>																									
F.2A ...	T	4	2 Rolls Eagle 8 ...	2 345 at 1,800	1,133	83	77	70	3.8	470	16.7	252	39.5	86	6 at 1,000'	9,500	10,978	7,549	2,124	585	720	9.7	15.9	N.M. 125	3/18
F.3 (Normal load) ...	T	4	2 Rolls Eagle 8 ...	2 345 at 1,800	1,430	79	74.5	—	5.4	333	24.0	163	—	—	6 at 2,000'	8,000	12,235	7,958	2,096	(2) 1,461	720	8.35	17.7	N.M. 155	4/18
F.3 (Over load) ...	T	4	2 Rolls Eagle 8 ...	2 345 at 1,800	1,430	78	75.5	—	7.8	230	41.0	75	—	—	—	6,000	13,281	7,958	3,142	(2) 1,461	720	9.3	19.25	N.M. 155	4/18
F.5 (Normal load) ...	T	4	2 Rolls Eagle 8 ...	2 345 at 1,800	1,409	89	86	78.5	4.0	462	16.1	290	32.5	160	7 at 6,000'	11,500	12,268	8,023	2,097	(2) 1,428	720	8.7	17.8	N.M. 165B	5/18
F.5 (Over load) ...	T	4	2 Rolls Eagle 8 ...	2 345 at 1,800	1,409	88.5	80.5	—	5.3	352	22.5	193	—	—	7 at 6,000'	9,000	13,306	8,023	3,121	(2) 1,442	720	9.7	19.3	N.M. 165C	5/18
H.16 ...	T	4	2 Rolls Eagle 8 ...	2 345 at 1,800	1,200	85.5	83.5	80	3.7	512	14.6	335	28.0	198	6 at 2,000'	12,500	10,670	7,363	2,115	472	720	8.5	15.5	N.M. 200.	5/18

NOTE.—Loading, Lbs. per H.P. ... Gross Weight ÷ Actual H.P. developed at normal revs.
 Lifting Surface ... Surface of Wings and Flaps only.
 Military Load ... Weight of Guns, Bombs, Ammunition and Reconnaissance Load.
 Air Endurance ... At 10,000' alt., at full throttle, including climb.
 Service Ceiling ... Height at which Rate of Climb is 100 ft. min.
 Weight Empty ... Includes Cooling Water for Water-cooled engines.

(1) 18" Torpedo.
 (2) With four 230-lb. Bombs.

0335

(B.116) TABLE 4.



紙用箋附

大正 年 月 日

海軍技術本部第六部

航空部

Handwritten Japanese text, including '航空部' and other illegible characters.

0337

0336

AIRSHIP PERFORMANCE TABLE.

	Length.	Diameter	Maximum Overall Height	Maximum Overall Width	Nominal Capacity C.F.	Nominal Lift. Tons.	Total Fixed Weight. Tons.	Disposable Lift. Tons.	Percentage Disposable Lift		Dischargeable Lift. Tons.	Percentage Dischargeable Lift		Petrol Capacity. Tons.	Total Nominal H.P.	Types of Engines.	Maximum Full Speed. M.P.H.	Normal Full Speed. M.P.H.	Cruising Speed. M.P.H.	Static Ceiling. Ft.	Maximum Range at Normal Full Speed. Miles.	Maximum Range at Cruising Speed. Miles.	Maximum Endurance at Normal Full Speed. Hrs.	Maximum Endurance at Cruising Speed. Hrs.	Guns Weight and Ammunition. Lbs.	Armament Bombs. Lbs.	Normal Crew.	Crew Accommodation.
									Gross Lift %	%		Gross Lift %	%															
<i>Non-Rigid Airships:—</i>																												
N.S.	261' 5"	56' 4"	68' 10"	58'	374,000	11.35	6.99	4.36	38.4	3.29	29	3.29	520	2,260 Fiat	60	58 (480 h.p.)	45	9,000	1,500	2,800	27	62	155	4,230	10	5		
C. Star	217'	44' 1"	55' 8"	50'	210,000	6.38	4.71	1.67	26.1	1.1	17.8	1.14	360	1,260 Fiat 1,100 Berliet	55	51	42	5,000	740	970	14	23	77	2,230	5	2		
S.S.	143' 4"	30'	44' 5"	39' 6"	70,000	2.12	1.4	0.72	33.6	0.38	17.8	0.26	75	1,75 Rolls Royce	54	50	40	4,000	680	700	13	17½	77	2,65	3	—		
S.S. Twin	197' 2"	34' 6"	48'	42' 10"	93,000	2.82	1.93	0.89	31.8	0.52	18.4	0.33	150	2,75 Rolls Royce	65	60	50	6,000	510	660	10½	11	77	2,230	5	—		
<i>Rigid Airships:—</i>																												
R. 28	585'	53'	84'	68'	942,000	28.6	22.6	6	21	3.36	11.7	2.25	1,000	4,250 Rolls Royce	53	50 (900 h.p.)	45 (750 h.p.)	3,600	500	540	10	12	490	4,100	17	8		
R. 29	539'	53'	81' 6"	63'	990,600	30.07	21.41	8.66	28.8	5.95	19.8	4.5	1,100	4,275 Rolls Royce	56.6	53 (950 h.p.)	45 (770 h.p.)	6,900	1,015	1,050	19	23.4	490	4,230	17	9		
R. 32	614' 6"	65' 7"	81' 4"	65' 7"	1,553,000	47.14	30.71	6.43	34.85	12.2	25.85	7.5	1,250	5,250 Rolls Royce	67	64 (1,125 h.p.)	45 (485 h.p.)	9,000	1,710	2,785	26.7	61.9 (24.19 h.)	550 980	2,620 4,230	21	10		
R. 33	639' 5"	70' 9"	91' 7"	70' 9"	1,958,000	59.4	32.85	8.55	44.7	21.21	35.7	15.27	1,250	5,250 Sunbeam	63.5	60.5 (1,125 h.p.)	45 (560 h.p.)	8,800	3,286	4,905	34.3	10.9 (4 h. 10 m.)	900 700 1,125 pdr.	4,520 8,230	26	13		

0337

0336

航空
隊 94

附表第三十六號ノ二

陸軍航空部編制表

部長

九八二

改定

考 備	計	補給部	本		區		階級	中少尉	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官
			部長	部員	技師	技師									
(一)本表定員ノ外本部中少尉一名、補給部ニ中少尉三名ヲ増加ス但シ本部及補給部中少尉ノ當分ノ内上等主長ヲ以テ充ツルコトヲ得	將校同相當官技師 三六 准士官下士列任文官 二六 乘馬 一二	檢査官 部員 二 主計 一 部員 八 内接手 二六 九	部長	部員	技師	技師	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官			
			一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		

0338